

# 万行寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺  
住職 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460

2024(令和6)年

仏暦2567年

9月号

(第156号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



## 住職 法話

### 無明の酔ひもやうやうすこしづつさめ

正信念仏偈に学ぶ  
彌陀仏本願念仏  
邪見憍慢愚痴衆生  
彌陀仏の本願念仏は、邪見  
憍慢の愚衆生

「現代語訳」  
阿彌陀仏の本願念仏の法  
は、よこしまな考えを持  
ち、おごり高ぶる自力の  
ものが、

『正信念仏偈』は、大き  
く二つの段に分けられ、前半  
はお釈迦さまの説かれた『無  
量寿経』というお経に依る  
ところを述べたので、「依経  
段」と言われてますと昨年の  
二月号にお伝えしました。こ  
こからの四句で、その「依  
経段」が結ばれます。  
前回まで、信心を得たこと  
によって恵まれる「ご利益」  
をお伝えしてきて、阿彌陀仏  
の本願のお救いを疑うことな  
く喜び信じなさいと言われま  
す。しかし、それさえ簡単な  
ものではない「難中の難」

であると、次の二句で言われ  
るのです。

そのわけは、人間は「邪見  
憍慢愚衆生」であるからと  
いうことです。「邪見」とは、  
因果の道理を無視した誤った  
考え方、「憍慢」とは、おご  
り高ぶることです。つまり、  
自分勝手でおごり高ぶるもの  
には、阿彌陀仏の本願を素直  
に聞くことも信ずることさえ  
できないと言われるのです。

私は、自分勝手でおごり高  
ぶったことなどありませんと  
言われる方もおられるでしょ  
う。しかし、それは素晴らし  
いのは自分だけで他が見えな  
くなっているだけです。心の  
中で、不平、不満、愚痴をこ  
ぼすだけでも「愚衆生」な  
のです。

親鸞さまのお手紙、「親鸞  
聖人御消息」には、  
もとは無明の酒に酔ひて、  
貪欲・瞋恚・愚痴の三毒を  
のみ好みめしあうて候ひ  
つるに、仏のちかひをきき  
はじめしより、無明の酔  
ひもやうやうすこしづつさ  
め、三毒をもすこしづつ好

まずして、阿彌陀仏の薬を  
つねに好みめす身となりて  
おはしましあうて候ふぞ  
かし。

とお示しになり、現代語訳す  
ると、「以前は無明の酒に酔  
つて、貪欲・瞋恚・愚痴の三  
毒ばかりを好んでおられまし  
たが、阿彌陀仏の本願を聞き  
始めてから、無明の酔いも  
次第に醒め、少しずつ三毒も  
好まないようになり、阿彌陀  
仏の薬を常に好むようになっ  
ておられるのです。」となり  
ます。

酒に酔ってしまっている人  
ほど、酔ってなどいないと主  
張するものです。そのように、  
煩惱に満ちた自身の無明の  
酔いにも気づかず主張ばかり  
繰り返すというのです。  
そこで、「彌陀仏本願念仏」  
のはたらきにより、自身の無  
明の酔いに気づかされたも  
のは、少しでも言動を慎む  
ことができるのでしよう。煩  
悩は無くなりませんが、無明  
の闇が晴れ、彌陀の光明に  
出遇えるということなのです。

# 浄土真宗 新 仏事のイロハ

## 四、法要・行事

— 仏縁を深めよう —

### 「お盆のお飾り」 精霊棚は使いません！

「お盆にはどのようなお飾りをすればよいのですか」と尋ねられることがあります。これは、お盆独特の飾り方があるのではないかと思われるからでしょう。

確かに一部の風習では、精霊棚を作ってお膳を用意するところがあるようですが、浄土真宗ではそういったことはいたしません。一般の法要と同じように、菓子、果物といった供物を仏前にお供えし、前卓には打敷を掛ければよいでしょう。

ちなみに精霊棚というのは、先祖の霊を迎えてもてなすため用意する棚で、位牌を並べ、その前に精進料理のお膳や迎え団子、その他盛りだ

くさんの果物、野菜を供えるものです。また、ナスとキュウリにおがらをさして、牛と馬に見立てます。これらは先祖の霊が乗るための乗物だそうですね。

この精霊棚の前で行う読経が、いわゆる「棚経」と呼ばれているものです。つまり、先祖の霊を丁寧にもてなし、お慰めして追善回向しようとするのが、精霊棚の慣わしです。

しかし、こうした風習はお盆本来の由来から言えば少し筋違いではないかと思えます。

そもそもお盆とは、仏弟子の目連尊者が餓鬼道に墮ちた



亡き母を救おうとして、その母に食物を与えるのですが、救われず、お釈迦さまの導きで衆僧に供養して初めて救われた（その日が七月十五日）— という故事から起こった行事です。すなわち、亡き母や特定の先祖に供物を捧げるというのではなく、自らが深く仏法に帰依して、限りなき仏さまのはたらきを仰いでいく— ということでしょう。言い換えれば、ご先祖のご恩に報いる道は私自身がお念仏を喜ぶ身となることです。ご先祖への報恩の思いから仏法を聞かせていただき、阿弥陀さまのお力によって救われていく身のお盆を喜ぶのが浄土真宗のお盆です。

ですから、精霊棚を設けるのではなく、ご本尊の阿弥陀さまを心から仰ぎ、お供え等をしてください。

なお、「棚経」という言い方もしません。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

### 年忌法要表

1 周忌	2023 (令和 5) 年	23 回忌	2002 (平成 14) 年
3 回忌	2022 (令和 4) 年	25 回忌	2000 (平成 12) 年
7 回忌	2018 (平成 30) 年	27 回忌	1998 (平成 10) 年
13 回忌	2012 (平成 24) 年	33 回忌	1992 (平成 4) 年
17 回忌	2008 (平成 20) 年	50 回忌	1975 (昭和 50) 年

### 編集後記

来月の十月二十七日(日)午後二時より、万行寺報恩講法要をお勤めします。お参りください。◆すでにお知らせしていますように、郵便料金の値上げのため、今月は法要の案内とともに寺報や来年のカレンダーなど、まとめて送る月にします。

